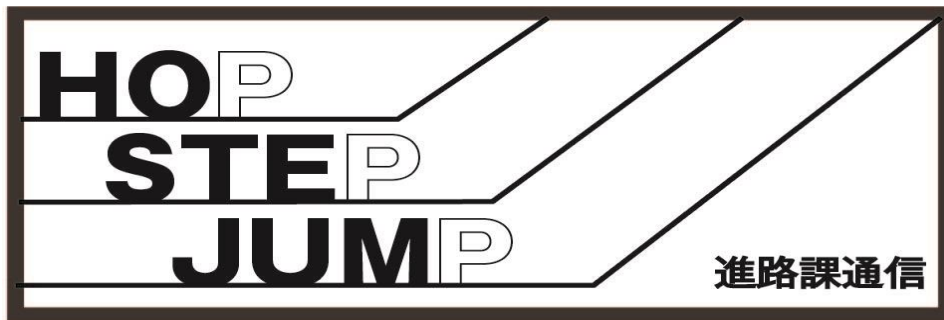




＝ 第8号 ＝
2020年6月22日
新庄北高校
進路指導課発行

※今年度の共通テストは追試が2週間
後で選択制になる？

2 年次生のために ＝シンキタ式大学入試突破の指針＝

1 年次もタメになる

大学入試は、**2年生に蓄えた力で決まります**。なぜなら、1，2 年生で積み上げてきたものは、**簡単に逆転されない**からです。世間では「逆転の〇〇」や「〇〇の奇跡」などというフレーズを耳にしますが、いわゆるセールストーク。ごく少数の成功例を掲げて、万人にあてはまるように錯覚させていますが、すべて2年生の時の地盤があつてのこと。2 年生でさぼってしまい、逆転できない人が大半、という目を背けたい事実が実は伏せられています。だから、**2 年生は勝負所**。

■ 2 年生の今の時期に何をすべきか？ ※熟読すると成績が伸びます

これから夏をむかえる2年生は、「人生の大きな分岐点」といってもよいでしょう。小学校からの積み上げを「**総決算**」するのが**2 年秋～3 年生にわたる「大学受験期」**です。大切な時期を迎える前に、受験生の基盤づくりをしましょう。

■ 意識の変革 ＝高校生活で“変える”ことができるのは“自分自身”だけ＝

「3 年生0 学期」という言葉は、全国の進学校で使われるテッパンフレーズ。受験勉強への移行をうながすスローガンとして、高校2 年生の秋（修学旅行後）に年次全体で共有します。高校入試と違い、**大学入試は「フライングが合格の秘訣」**。早くはじめれば、その分有利です。だからこそ高校3 年生「0 学期」は重要であり、全国の進学校が「受験モード」に切り替わります。しかし、なかなか「急に変化しない」のが現状であり課題です。新庄北高校も、実際に2 年生秋から受験を本当に意識する先輩は「レア」でした。理由は、すぐに年末のイベントが訪れて気持ちが続かないからです（サンタには勝てない）。同じように、みなさんも「急に走り出せない」体質。**だからこそ、今です**。夏休み前～修学旅行前までの期間を「ウォーミングアップ期間」としてとらえてください。「コンディショニング期間」といってもいいと思います。これは意識の話であるため、周囲が…環境が…塾が…ではありません。「**もうすぐ受験生だな**」と**自分の中の意識を変えることが、すべてです**。自分が変われば、視点や視界も変わってきます。**世界が少しずつ変わってきます**。

■ 高校2 年生の生徒のパターンは2 種類 ※あなたはどっち？

パターン	特徴
①もともと勉強ができる人	- 家庭学習60分くらいでも学年上位の成績にいる。 - 模擬試験もそこそこに得点できる。
②がんばってもなかなか伸びない人	- 高校の学習内容が「んっ、難しいな」と思っている。または、つまづいて授業が苦痛。 - 模擬試験で全国平均より下の得点が多い。

高校 2 年生は①もともと勉強ができる人、②がんばってもなかなか伸びない人、の2種類に大別されます。これを読んでいる生徒のみなさんは、あの人は①・・・と容易に想像できるのではないのでしょうか？ 新庄北高校の場合は、各クラスに2～3名の割合で①の生徒がおり、残りは②です。そして、②の人は、「①の子は才能があるから」「①の人は天才系で、少しの学習ですぐ点がとれる。いいな～」と羨んでいたります。していませんか？ 実は、ここに大きな誤解が生じています。①と②の差は才能や能力ではなく、「中学校・高校 1 年生までの基礎」のみです。言い換えれば「**得るべき時期に得るべきことを得たか**」。



「もともと勉強ができる人」は、**特別な才能や頭脳を持っているというわけではない**のです。基礎基本が身についているか、この1点が大きな「点差」となっているだけ。基礎があるから、少し勉強するだけで理解できてしまう。つまり、全員「もともと勉強ができる人」になれます。これは本当です。そして、大学入試は「そこ」を見ます。

■基礎基本とは何か。

永久保存版

「基礎の徹底」という言葉をよく聞きます。「基礎ができて」「だから応用ができない」「基礎の徹底」・・・基礎って何でしょうか？ よく「教科書の知識」や「授業の内容」のことだと説明されます。間違っていないですが、大学入試的に言えば少し足りません。**入試に必要な5教科は、それぞれ「特性」があり、入試問題もその「特性」が強く反映されたものです。**ゆえに**基礎は、科目によって違います。**大学入試における受験科目を3パターンに分類しました。

一定の暗記量が必要	総合型（知識 & 論理）	論理的思考が重要
社会科、生物、古典	英語	数学、物理、化学、現代文
■基礎は一定の知識。 □暗記は大きく①単純暗記、②関連暗記に分けられる。②が基礎。「暗記は苦手」と言っている人は、ほぼすべて①の暗記をしている。①が得意な人は、おそらく皆無（AIは得意）。②は、「慣れ」が大切。これらの科目の問題は配点が小さいものが多く、積み重ねが大きな差に。	■感覚が活かせる問題がある。 □主要 5 教科で唯一の実技と言ってよい。毎日やらないと伸びない。ほぼすべての受験生が中学校からの学習であるため、「努力量」がもっとも測りやすい。大学受験の中心科目である。苦手な生徒は、文法と語彙がダメなだけ。逆にそこができれば大丈夫といえる。	■公式・定理や構造が基礎 □“センス”が大切だ、などと言われることがあるが、それは間違い。この科目こそ、「訓練」を繰り返す体力が重要で、最も地味。勉強量が成績と比例するが、基礎を理解しないと、いくら学習しても伸びない。また、問題の配点が大きく、○か×かはっきり分かれる。

■【社会科の科目・生物・古典の基礎】 ～まだならすぐ身に付けよう～

これらの科目は、「**一定の暗記量**」が**基盤**となって**問題が作問**されています。ゆえに基礎は2つに絞られます。**①一定の暗記量を覚えられるスキル、②單元ごとの全体像の把握**。細かいことを覚えていればいい、ということではなく「キーワードと関連事項」を單元ごとに覚えているか。ここでいう單元とは、教科書の「節」や「項」です。現代社会でいえば2ページずつ、歴史科目は時代ごとに区切りとなります。「暗記は苦手」という声をよく聞きますが、暗記が得意の人は基本いません。なぜなら脳はシステム上、暗記に不適應だからです。だから暗記ができないのは普通です。ただ、入試は一定の暗記量を試されます。そこで必要なことは「キーワードとの関連づけた暗記」ができるか。「結び付けて覚えよう」や「関連付けると覚えやすい」ということは聞いたことがあるかと思います。すぐ実践するなら、担当教科の先生に「この単元のキーワードは何ですか」と聞いてみてください。「アイデア論だな」と、ズバッと答えてくれます。キーワードに関連する「プラトン、理想主義、現象界・・・」をまとめて覚えます。これで基礎①の完成。單元ごとの全体像(②)は、定期考査ごとの単元を一通り学習したかどうか、ということです。社会科、生物、古典はある程度我慢して一定の知識を入れなければ何も解けません。①、②は上記科目の学習の基礎でもあり神髄と言えます。

■【英語の基礎】 ～まだならすぐ身に付けよう～

英語は「5教科の中の実技科目」だと言えます。「文脈から推測してください」「流れから考えると・・・」といった解説を読んだことがあるかと。これらはすべて、「英語は実技」の証明であり、この能力を「英語感」と言います。この「感」なるものを習得できれば、無敵です。しかし、そんなスーパー高校2年生には、あまりお目にかかれません。常人にはなかなか遠い領域。だから、その次元まで少しでも近づく努力が必要なのです。ありがたいことに、**英語はしっかりやれば誰でも得点を伸ばせる「最も公平で、最も学習効果がある科目」**です。英語感を身に付けるため、**①毎日英語、②中学校の学習、③基本文法と単語・熟語**。それが英語の基礎。

①については、よく分かると思います。毎日英語をしない高校生はいない、が受験の常識も大です。全国の進学校の生徒は、「毎日英語」は、3食と同じくらい「日常」なのです。抜くと調子がでない・・・②について、早いうちに中学校の復習にとりかかるのが良いです。「今さら中学校の・・・」と思うかもしれませんが、**模擬試験で偏差値56を越えない人は、間違いなく中学校の知識に穴があります**。そうです、あの時に少し手を抜いたやつです。あの時、分からないままウヤムヤにした知識達です。思い当たる節があるはず。勇気をもってその「ツケを払いましょう」。高校2年生の今なら、十分間に合います。「学習時間は多いけど成績が上がらない」という生徒は、全部この「穴埋め問題」を放置しているのです。再度、書きますが「**勇気をもって昔のツケを払いましょう**」。それが劇的に**高校で英語が伸びる最大の戦略**です。③については、授業等で何度も聞いているかと思いますが。文法と英単語学習をしないまま英語の成績を向上させるのは無理です。「最近では長文の問題が主流で、文法問題は少しだから、文法の勉強はそこそこで良い」などと考えている人は、まったく英語のことを分かっていません。※英語はツールであって会話重視、といっている人も同じレベルです。それは英語ではなく「英会話」。大学入試の受験科目は、すべて「英語」です。単語と文法の知識がベース。毎日やりましょう。単語は2500ぐらいが高校英単語の標準だと言われます。ちなみにネイティブの単語量は10～30万語だそうです。2500は覚えきれる量です。**文法は、学習のゴールがあります**。つまり学習すべき事項は決まっています、増えません。だから、**高校2年生で「文法が完成」することは十分可能**です。毎日やりましょう。伸びますよ。

■【数学・物理・化学・現代文の基礎】 ～まだならすぐ身に付けよう～

よく「数学的思考」や「物理脳」「現代文の考え方」といった言葉を聞きます。論理的な思考が必要な科目です。そのような頭の使い方ができる人を“応用力がある”と言いますが、応用力って何でしょうか。ちなみに、これらの科目は「一度分からなくなると、その後はひたすら苦痛・・・」という特性があります。一見、基礎の理解不足→応用できない、というように見えますが、じつは**最後まで基礎の積み重ね**です。基礎の基礎→基礎→基礎の変化形→基礎の変化形②→基礎の変化形③・・・という具合で教科書はつくられています。だから、**授業で学習した内容を理解し続けることが最重要**になります。大学入試が教科書の範囲から逸脱しないことが前提。だとすると、「教科書の完璧な理解（基礎の完璧な理解。言い換えれば**知識の根幹を知っている**）」をすれば、すべての初見問題が解ける・・・ということになります。

これらの科目の基礎は①**公式、定理、基本構造を覚えている**、②**教科書の例題が解ける**、です。「数学は暗記である」という言葉を聞くことがあるかと思います。チャートの「解法」を隅々まで覚えてしまえば、類題を解くことができる、ということ。間違っただけではありませんが、「**なぜその立式なのか」「なぜその式を展開するのか**」を知っていなければ、**本当の論理力が試される問題**（これを学校では俗に「とっても良い問題（良問）」と呼ぶ）に出会った時に、解答できないでしょう。※そして、そんな問題に出会うのは、配点が大きくなる「二次試験」。**基礎問題(例題)からこの「なぜそのように解くのか」を実践**していけば、大幅な成績向上につながります。教科書の例題を本当に解答できたが、これが分かれ道。そして、それを聞くのが授業です。

世の中にこれを言い訳にする人もいます。もったいない。

■中だるみとやる気

高校 2 年生は中だるみをする時期だ～、要注意。とこれから聞くとおもう。意味は「成績の変動がもっともはげしい時期」ということです。「たるみ」という言葉から、全体が下がっているような印象をうけますが、**実は劇的に成績を伸ばす人もいます**。変動は上がることも含みます。「**逆転は意外にも高校 2 年生で起こる**」のです。新北生も、高校 2 年生の模擬試験（1 1 月模試 or 1 月模試）で大幅に成績をアップさせる人がいます。年度によりますが、学年に 1 5 名ぐらいが平均です。これは進路指導課では「飛び立った人（トビタニアン）」と呼んでいます。※学校の住所が「飛田」だから。文字通り、学力層がグッと「上がり」ます。そして本人の進路希望先もそれまでより難易度の高い大学を目指すようになります。さらに嬉しいことに、**ほぼ確実にそのグレードアップした大学に 3 年生の時に合格してしまう**のです。この劇的な変化をもたらした要因はすべて「**基礎をしつこく身に付けたこと**」。今年は何人が飛び立つのか？ 毎年期待しています。また、今の時期によく受ける質問が「**どうやったらやる気が起きますか**」というものです。やる気があったら勉強できるんですけど・・・。**まさにたるんでいます**。はっきりと明言しますが、**やる気があって勉強をスタートさせる生徒はいません**。やる気は勉強していたら出てくるものです。だから、**毎日の学習時間を固定して習慣化することが大切**なのです。勉強する時間だ→勉強をはじめる→徐々にやる気がでてくる→脳内に血流を活性化させる△△パミンやら□□ホルモンやら何やらが分泌→勉強終了→達成感→成績向上→です。まずは、習慣化してやりましょう。

■私立難関大を目指す高校 2 年生へ

首都圏にある難関私立大学を目指している生徒は、**すぐに「私大対策」**をはじめてください。具体的に「早慶上智 GMARCH」です。これらの大学には、残念ながら新庄北からサクサク合格する人はいません。新庄北でトップ、でもダメなことが多いです。理由は対策遅れ。ライバル達は「特化」して対策しているのです。**第一志望で上記の大学を目指す人は今をはじめてください**。